

「横のつながりから 縦のつながりへ」

矢沢地区の取り組み

1 はじめに

矢沢地区は、矢沢小学校、やさわこども園、たかきこども園、島保育園の1校3園で構成されている。

昨年度は「横のつながり」ということで、3園合同交流会の実践を発表した。今年度はそれを更に広げ、小学校と3園との縦のつながりを充実させようということから、取り組みを考えた。

2 取り組み内容

4月 小学校のおやつ給食参観

矢小授業参観（園職員参観）

5月 矢小運動会（園児見学）

8月 **にここ交流会(幼保小交流)**

※太字は、今年度新しく

10月 矢小マラソン大会（園児見学）

追加したもの

3園合同交流会（年長児・童話村にて）

矢小学習発表会総練習(園児見学)

11月 矢小給食参観 **交流会(小学校担任、園職員)**

12月 **にここ先生体験**

1月 矢小1日体験入学（園児参加）

2月 連絡会、幼保交流訪問

3 交流の実践

(1) 4月 おやつ給食参観

入学して、4日目のおやつ給食を参観した。緊張した様子だったが、新しい環境に適応しようとしている姿を見て、成長を感じた。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の「健康な心と体」から自ら健康で安全な生活を作り出そうとする姿や「自立心」のしなければならぬことを自覚し、自分の力で行う姿等を読み取ることができた。

幼児期の生活や遊びの中で育まれた力を発揮しながら、自分たちで新しい環境の中で、新しい生活を築いていこうとする様子を捉えることができた。



これらの意見を受けて、小学校側では子どもたちのこれまでの育ちを踏まえながら、主体的に自己を発揮できるような発問や環境を意識していく事が大切であると感じた。

(2) 8月 にここ交流会

3つの園と1年生とで、簡単なゲームを行い、交流した。

〈ねらい〉

(園) 小学生と触れ合うことで、小学校に親しみの気持ちを持つとともに、他園の園児との交流を深める。

(小) 園児との関わりを通して、下級生に優しく接するとともに自分達の成長に気づくことができる。

〈内容〉

じゃんけん列車、 仲間作りゲーム、 進化じゃんけん

じゃんけん列車の様子



じゃんけん列車

1年生は、なるべく保育園・こども園の子に声をかけ、じゃんけんするようにしました。

はじめのゲームは、まだ緊張した様子の園児たちでしたが、楽しくじゃんけんしました。

仲間作りゲームの様子



仲間作りゲーム

仲間を作った後、自己紹介をして、「なべなべそこぬけ」をして、楽しく交流しました。

進化じゃんけんの様子

進化じゃんけん
同じ動物の仲間を見つけて、じゃんけん。困っている子を誘う場面も見られました。

園児にとっては、ちょっと難しいゲームでしたが、小学生と一緒に、楽しく行いました。



〈成果と課題〉

- 最初は緊張した様子の一年生と園児だったが、ゲームをやるうちに表情が和らぎ、仲良くなることができた。
- 幼いと思っていた一年生だが、自分達がお兄さんお姉さんだという自覚を持ち、自分から声をかけたり誘ったりする様子を見て、成長を感じることができた。
- 小学校に行ったということで、来年1年生になるという実感をもつことができた。「にこにこ交流会」後は、もう小学校に行けると思っていた子もいた。
- 最初は同じ園の子同士でじゃんけんやグループを作っていたが、だんだんに小学生や他の園の子とも交流することができた。普段とは違う様子も見られた。
- 「進化じゃんけん」はちょっと難しかった子もいたが、園に帰ってからみんな楽しんで。その中で、「来年は自分達がやるんだ！」と小学生になることへの期待感をもった園児もいた。
- 今回は小学校主体で行ったが、事前に交流会の打ち合わせを行って内容を確認すると良かった。（園児の様子に応じて個別の援助、指導観の確認ができる。）
- ☆にこにこ交流会で行った遊びは、次年度のスタートカリキュラムに取り入れると良いのではないか。

(3) 11月 給食参観



自分達で盛り付け、配膳しています。

やさわこども園でも、年長さんは白衣を着て、配膳。



(4) 11月 交流会

給食参観の後、園職員と小学校担任とで、給食参観や「にこにこ交流会」の感想等を交流し合った。

〈給食について〉

- ・小学校のご飯の量がすごく多く感じられ、ご飯を食べるのに時間がかかっているようだった。1，2年生が同じ量なので、ちょっと量が多いと思う子どもについては、最初に減らして、残食なく食べられるように工夫していた。
- ・牛乳は100mlまでしか飲んでいないので、200ml飲んでいてびっくりした。牛乳パックも上手につぶしていた。園では、牛乳はおやつ時間に飲んでいる。
- ・幼稚園（保育園）の時は、野菜が苦手で食が進まなかったり、食事にすごく時間がかかっていたりした子たちも、しっかり食べていて成長を感じた。

〈成果と課題〉

- 先生たち同士で話をする機会が無かったので、交流する良い機会となった。
- 入学して半年過ぎたことで、1年生が成長した様子が分かり、園ではアプローチカリキュラムに生かすことができる。

(5) 12月 にこにこ先生体験(保育士体験)

- ・登園してから、遊び、朝の会、クラス活動など、自然な流れで保育が行われていた。
→入学直後は、歌や手遊びなどを取り入れながら、自然になじめるようにしていくとよいのでは。
- ・朝の遊びでは、異年齢の子どもたちが一緒に巧技台や鉄棒で遊び、年長児のまねをしてやってみようとする年中児がいたり、年長児が年少児のお世話をしたりと、子どもたち同士で関わり合いながら遊びを楽しんでいた。
→幼児期に、人と関わる力をつけていくことで、小学校で新しい人間関係を築いていくことができる。
→遊びの場面では、場合によっては教師が間に入りながら新しい人間関係を築いていけるようにする。
- ・少ない指示でも子どもたちが見通しをもって動いていた。
→絵や写真等で示すことで、少ない指示でも行動に移すことができる。



4 まとめ

今年度の取り組みを通し、昨年よりも相互の理解を深めたことで、保幼小のアプローチカリキュラムからスタートカリキュラムへのスムーズなつながりとなっていくのではないと思われる。

今年度行った「にこにこ交流会」は、子どもたちにとっても良い活動だったので、来年度は、7月頃に、「にこにこ交流会」の打ち合わせもかねて、教師・保育者の交流会を行うことで、よりよい連携が図れるのではないかと。

小学校では、保幼小の交流を行っていることは担当教師間の中で共通理解できているが、内容や細かいことについて他学年を担当していると十分に知り得ないことが多いので、次年度スタートをする際には、前年度の担当教員も関わり合いながら計画を立てるなど、引き継ぎをしっかりと行うことが必要である。